

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【公表番号】特表2001-525461(P2001-525461A)

【公表日】平成13年12月11日(2001.12.11)

【出願番号】特願2000-524331(P2000-524331)

【国際特許分類】

C O 8 F 110/06 (2006.01)

C O 8 F 4/645 (2006.01)

C O 8 F 290/04 (2006.01)

【F I】

C O 8 F 110/06

C O 8 F 4/645

C O 8 F 290/04

【手続補正書】

【提出日】平成17年11月21日(2005.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ビニル基を有する立体特異性ポリプロピレン鎖を有する化合物であり、立体特異性ポリプロピレン鎖の数平均分子量（GPCによるMn）が2,000ダルトン乃至50,000ダルトンであり、さらに、1,000炭素原子当りのビニル基の総数（¹H-NMRによる）が7000÷Mn以上であり、前記立体特異性鎖が、プロピレンホモポリマー又はプロピレンとエチレンのコポリマーのアイソタクチック、シンジオタクチック又は混合物であり、ポリマーがそれぞれ、少なくとも70%のアイソタクチック又はシンジオタクチックプロピレン半句（¹³C-NMRによる）を有する化合物。

【請求項2】 立体特異性ポリプロピレン鎖が5,000ダルトン乃至40,000ダルトンの数平均分子量（Mn）を有する、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】 総オレフィン基に対するビニル基の比が0.60以上である、請求項1に記載の化合物。

【請求項4】 立体特異性ポリプロピレン鎖がアイソタクチックポリプロピレンである、請求項1に記載の化合物。

【請求項5】 立体特異性ポリプロピレン鎖がシンジオタクチックポリプロピレンである、請求項1に記載の化合物。

【請求項6】 a) 溶液中で90℃乃至120℃の温度において、プロピレン又はプロピレンとエチレンから選ばれる2以上のモノマーを、立体特異性ポリプロピレンを製造することができるキラルの立体剛性（stereorigid）メタロセン触媒化合物を含有する触媒組成物と接触させること及び

b) 前記鎖を回収することを

含む、請求項1に記載のポリマー鎖を製造する方法。

【請求項7】 立体特異性ポリプロピレン鎖がアイソタクチックポリプロピレンである、請求項6に記載の方法。

【請求項8】 触媒組成物がさらに非配位アニオン前駆体を含有する、請求項6に記載の方法。

【請求項9】 触媒組成物がさらにアルモキサンを含有する、請求項6に記載の方法。

【請求項10】 キラルの立体剛性遷移金属触媒化合物が、ジメチルシリルで架橋されたビスインデニルジルコノセン又はハフノセンから成る群から選ばれる、請求項6に記載の方法。

【請求項11】 キラルの立体剛性遷移金属触媒化合物が、ジメチルシリルビス(2-メチル-4-フェニルインデニル)ジルコニウムジクロリドである、請求項6に記載の方法。

【請求項12】 立体特異性ポリプロピレン鎖がシンジオタクチックポリプロピレンである、請求項6に記載の方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0079

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0079】

ポリマー分析

反応生成物の分子量、分子数及び分子量分布を表1に示す。反応生成物の融点を表2に示す、反応生成物の不飽和基構造分布についてのNMRデータを表3に示す。50℃で重合された比較例6、7及び8の反応生成物は、他の反応生成物よりもかなり高いM_n値及びかなり低いビニル割合を有する。